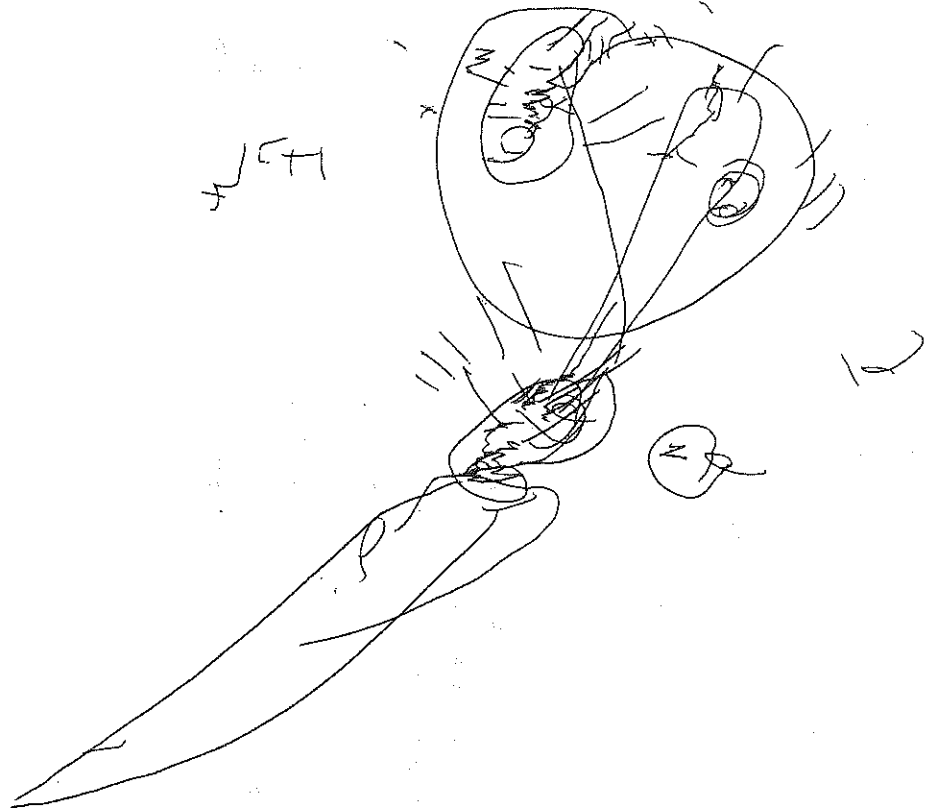


働こう障害者も 働けるんだオレたちも  
こぶしだより

2001年2月28日発行

発行責任者  
藤田勝春  
編集責任者  
田澤幸子



- ①特集 (1〜2ページ) 大変動期の障害者福祉を迎えて
- ②仲間 (3〜4ページ) カレンダー販売 (こぶし)  
なかまの声・二十歳の抱負 (けやき)
- ③保護者・こよみ (5ページ) こぶし福田さん
- ④トピックス (6ページ) 現代国際巨匠絵画展・結婚を祝う会

「仲間」こぶし 岸 直美

社会福祉法人  
こぶしの会

\* 法人事務局  
こぶし作業所

☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401  
TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912

\* けやき作業所  
\* デイサービスセンター

☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町 祖母井 2244  
TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789

\* 第二けやき作業所

☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町 稲毛田 1532  
TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818

\* グループホーム  
ときわ荘

☎ 321-0954 栃木県宇都宮市元今泉 6-14-20  
TEL 028(662)5533

\* グループホーム  
すずらん

☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町 祖母井 2305-2  
TEL 028(677)4430

## 大変動期の 障害者福祉を迎えて

この間の社会福祉基礎構造「改革」の一つの結節点である福祉法改正をめぐる動きは、戦後40年間営々と社会福祉事業を営んできた私たちの仕事に大きな問いかけをしている。昨年6月7日に法律が公布、施行され、平成15年より実施に移される。すでに高齢者関係は介護保険制度に移行し、医療法人・企業・NPO法人の参入の中で事業者間の熾烈な競争が始まっている。東京都の三鷹市では、公設民営（行政で建物を建設し運営を民間にまかせる方法）で高齢者の施設運営を入札したところ、社会福祉法人は区立で運営する場合の経費の8割、企業はなんと半分の運営費で経営できると言うことで企業が落札したという。今、全国の高齢者施設は職員の半分は臨時・パートでこなしているという。大競争時代を迎え、社会福祉法人の経営体質を「強め」ているのだ。障害者分野も平成15年から制度の転換が実施される。本格的な「改革」の第2ラウンドを迎え、こぶしの会の理事会・職員、当事者自治会、家族（保護者）会、後援会が今現在私たちのおかれているところと私たちの目指す方向を正確につかみ、一致団結し、福祉業界の中では数少ない「みんなで作る作業所」こぶしの会を、この荒波の中でさらに発展させることが求められていると思う。

けやき作業所が開設して2年半。この激動期に私が考えてきたことはなるべく正確な羅針盤を早

く手にすることであった。そのためには現場には大きな迷惑をかけながら、共同作業所全国連絡会の全国理事や重度・重複部会、生活施設・グループホーム部会に属し学ばせてもらった。また、社会就労センターや日本障害者協議会など気になった研修はことごとく参加させてもらった。特にこの一年は重要な会議や研修が集中していたように思う。以下、私が学んできた一部を報告していきたいと思う。

### 福祉制度の「変革」をどうとらえるのか

社会福祉基礎構造改革をどう捉えるのかと言うときに大切な視点は、マイナス部分と積極的な部分をどう捉えるかだと思う。この「改革」の本質は、640兆円という今年度国家財政の8年分にも達する借金の解決をするというための基礎構造改革であり、そのために福祉予算を聖域とせず、いかに減らすかと言う根本的な動機があるという。そのためにも企業の参入を進めたのだ。そもそも企業同士の競争の中で生みだされた社会的弱者を救うために社会福祉の制度が成立したのだから競争と本来的な社会福祉とは相容れない。

しかし、一方でこの「改革」は世界の福祉水準や国民の願いを理念的には反映している部分もある。その内容は社会福祉事業者（私たち）が真摯に受け止めなければならない部分が数多くあるように思うのだ。端的に言えば、措置費（税金）という公的に保障された運営費の中でどれだけ国民

や障害者の願いを戦後40年をかけて実現してきたのが問われているのだ。「否」というのが厚生省の言い分である。

### 福祉改革のキーワード

では、国民の負託に答えねばならぬ私たちに課せられたものはどんなことであろうか。今回の事業法改正のキーワードは「利用者の立場に立った福祉制度をつくること」、合わせて障害者の権利擁護も重視している。そして、「地域福祉（地域生活）の推進」と、このことにもない、「（少なく貧弱な）社会福祉の社会資源を充実・活性化していくこと」があげられている。

この中のいくつかの点はすでにこぶしだよりで伝えてあるので詳しくは言及しないが、この改革の前身に目を通したとき、言われている内容について、はじめ「こぶしの実践」に自信を持っていた私は「何を今更」と思った。しかし、例えば、私たちの実践を点検する「共通評価基準」（最近実施したのだが）にしたがって多くの職員にけやき作業所の評価をしてもらった。その結果は惨憺たるもので大きなショックを受けてしまった。けやき作業所のサービスの評価は最下位ランクなのである。我がけやき作業所においてはまさに必死の思いで実践を積み重ねてきたと実感していたのだが、こぶしの仕事を根本から捉え直す必要を感じた。理念を掲げて満足しているわけにはいかな

いとじわじわと感じ始めたのである。今回は、こぶしの実践の土台である、「利用者

主体」の実践や「働くこと」と「暮らし」のことに焦点を当てて簡単に触れてみたい。

## 私たちに求められているもの

私たちは仲間を主人公とした作業所づくりをスローガンに取り組んできたつもりであった。仲間たち（現在、共作連では「仲間」というだけで対等平等の実践をしているつもりになるのをさけるために「本人」とか「当事者」とか呼んだらどうかという議論を組織改革の検討の中で深めている）の願いを実現することは事業の目的でもあり、ここをはずすと経営のための経営に墮落していく。しかし、この前提も心許なくなつた。ゆたか福祉会や鴻沼福祉会、共作連広島支部の虹の会、同じく滋賀支部のグループホームの仲間の会の実践や丁寧なアンケート活動・・・そこでは悲しくなるほど職員の立場に気遣いながらも、「無視しないで欲しい。大声を出さないで欲しい。もっと給料が欲しい。結婚がしたい」等の不満や希望を率直に述べている・・・そして、そのアンケート活動に基づいた事業計画づくりの実践を聞くと私たちの自治会活動とはいったい何だったのかと落胆してしまつた。文字通り仲間たちの願いを基礎に労働・生活の場を見直すことが求められている。

## 「働く」「暮らす」ことを改めて捉え直す

仲間たちの願いを聞くときの物差しを持つこと

は、私たちの取り組みの水準を決定する大切なものである。そして、その物差しは「人権」や「国際水準」という基準でなければならぬのではなにか。現状を分析して現実的な方針を出すことも大切だが、「人間として当たり前の生活」という目標を指さないと現実の泥沼の中で悪循環に陥ることが多い。障害者の働く場、社会就労センターという私たちの事業も労働保障、ノーマライゼーションという観点で常に捉え返し実践化していかないとマンネリにすぐ陥っていく。例を挙げると、1万円前後の賃金（小遣い？）水準、仲間たちを作業所に抱え込み社会参加をあきらめることなどこぶしの実践が改めて問われている。障害が重いから、地域の理解がないからと高賃金の追求や一般就労、「キッチンセルブ」のような地域の中で本格的な働く場をつくっていく取り組み等をサポートしてこなかったらどうか。けやき作業所ではこの2年間で10人の就労を実現してきたのだが、職員集団が作成した彼らの支援計画の目標には一般就労という言葉は一言も記されていない。協働意識には就労という言葉はなかった。この3月の終わりに社会就労センター協議会は、作業所からの地域移行の提言を出す。業界の意識改革も議論がはじまつている。

暮らすというテーマも同様である。人権という視点で生活の場づくりを考えていくと、既存の生活の場はどうだろうか。厚生科学研究所が昨年12月に歴史的なシンポジウムを開催した。入所更生施設の人権侵害（肉体的虐待ではなく）の実態調査を報告した。入所者に、施設の中では障害の重い人たちの介護を指導員の補助的な労働として

社会復帰できる障害者を何十年と抱え込んできたのである。精神障害者の社会的入院と同様、世界的には解決済みの状況を作り出せていない。本人たちの地域生活への期待を集めた報告書も報告された。

## 障害者問題の専門家として

私たちは、仲間たちに「発達」や「成長」「自立」と指導してきた。では、こぶしの四半世紀の実践の中でどれだけこうした「自立」や「発達」の事実をつくってきただろうか。さきにあげた議論の中で考えてみると、私たちは仲間たちの能力のなさ（本人の自覚の問題）に主に焦点を当ててきてはいなかったらどうか。

変革の時代に障害者の生活と未来に深く関わっている私たちに求められるものは何だろうか。ひとつはどんなに学ぶことであると思う。そこで求められるのは私たちの「発達」や「成長」、「自立」ではないだろうか。そのためには私たち一人一人が自分自身の変革を追求するという内的な準備がなくてはならない。この大激動の中で課せられた課題であると思うのだが、今月は総括と次年度の計画を立てる月である。

（けやき 高橋）

## 売ったぞ売れた

「カレンダー販売」

こぶしでは、自治会活動の取り組みとして、カレンダー販売に取り組みました。販売活動は夏季販売でもやっていますが、今回の取り組みの柱は、「注文や納品を仲間が中心となって取り組む」「販売収益は自治会に還元して自治会から仲間に支給する」方針でした。

バザーに備えて販売担当のメンバーを募り、本格的には11月より動き始めました。販売のプロセスとしては、随時販売事務局会議を開き、注文、依頼の日程を決め、仲間と職員の希望者で依頼回りをします。今回の販売担当事務局になったのは、横山幸生さん、亀田智直さん、新田忠弘さん、野沢浩之さんの4人でした。販売を開始した当初は、3種類のカレンダーのみの取り扱いであり、しかもバザーで大量に売れ残ったものを売りさばくという状況でした。

販売依頼は、バザーでお世話になった地域商店、学校、市役所出張所を中心に取り組みましたが、依頼先からの注文が増える

につれて、仲間の間でも「もっと売りたい」「うんとがんばってお金をつくりたい」という要求が強くなってきました。同時に、「扱うカレンダーが3種類では少ない。もっと多くのカレンダーを売らなくては」という声も事務局から聞こえるようになりました。

締め切りに向けて事務局も大忙しです。亀田さんは依頼した事業所に一つ一つ電話で確認、新田さんがダイヤルのボタンを押してくれたりカレンダーの箱詰めにとりくんでいました。横山さんはカレンダーのビニール袋入れ、野沢さんは箱詰めやカレンダー運びと、役割を持って取り組んでいました。この販売が、仲間の日常の仕事にも大いにプラスになっており、仕事とカレンダー販売の両面で給料に関心を持ったり、保護者から「この頃こぶしに行くのがとても楽しいようです」という声も聞こえました。

仲間のがんばりで202、352円の収益、販売総本数は404本になり、方針通り、自治会より仲間一人一人にお金が支給されました。ご協力どうもありがとうございました。

(こぶし 東岡)

## なかまの声

(こぶし編)

仕事についての話し合いから

ベアリング班では、将来ベアリングのほかにどんな仕事をしたいか話し合いました。以下はその様子です。

「キッチンセルフ(で働きたい)」

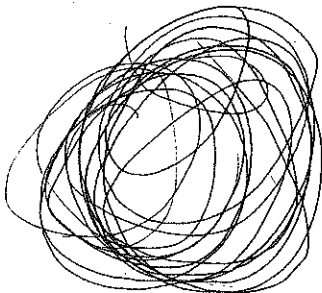
「こぶしのなかでしごとしたい」

「箱詰め作業をしたい」

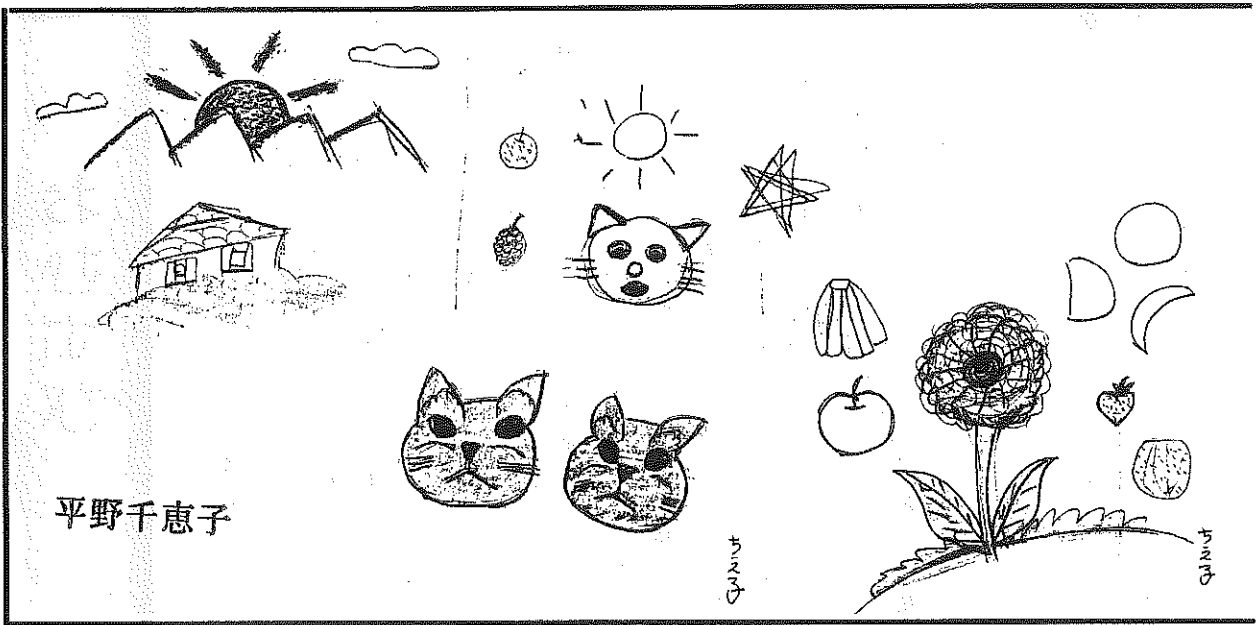
「ジャム工場をやりたい。いちごをつくらせて、いちごを使ってジャムをつくりたい」

「ジャムを店で売りたい」

「就職したい」



明 秀 野 鶴



## 二十歳の抱負

けやきの新成人の言葉

### 20歳になって

20歳になった時は、お父さんもお母さんも喜んでくれました。僕は、20歳になりましたが、酒もたばこもやる気はありません。

今、やっているパン班の仕事は、とても勉強になります。パッカー（ハンドデイツシャー）の名人になって、これからもつとがんばっていききたいです。

（けやき 広瀬智也）

### 20歳を迎えて

20歳といっても、私は、まだまだ半人前です。これからは、大人の女になって、一生懸命に働いて両親に楽をさせてあげたいです。

（けやき 渡辺景子）

### 20歳への思い

最近始めたとロカセットの分解作業は、

### 20歳になって

今、自分のやっているパン販売の仕事も、これからも続けていきたい。グループホームに入って楽しく暮らしたい。趣味のギターをがんばりたい。

（けやき 藤平義章）

やっついておもしろいし楽しいと思う。でも、めん類が好きなので、うどん屋さんをやってみたい。そしてたくさんお給料をもらったら倉木麻衣のコンサートに行ってみたいと思う。すぐにおなか痛くなるのはみんなに迷惑がかかるので困る。直したい。

（けやき 湯沢敦子）



## おむすび

やっちゃんとかぶし作業所

「やっちゃんおはよう」「あーうーん」  
頭を下げてお向かいの叔父さんに挨拶です。  
私より一足先に家を出てしまいます。寒いので私のコートのポケットの中で手をつないで歩きますが作業所のバスが見えると喜んで走っていきます。

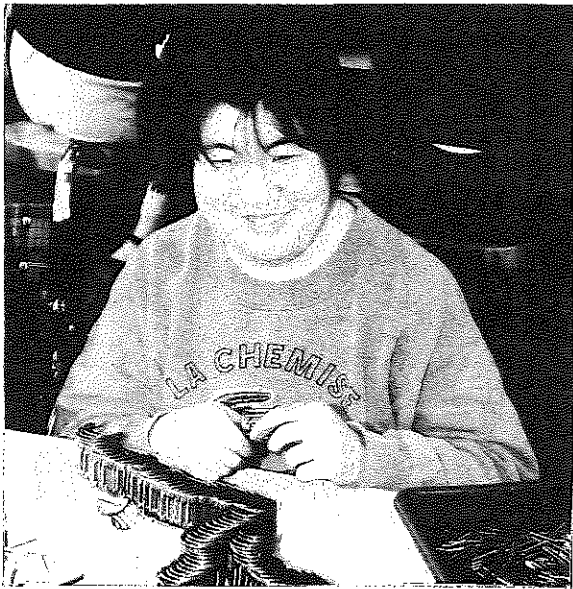
寧子の笑顔を見ると幸せを感じてしまいます。振り返ってみますと、せんたく物干し、お茶碗洗い、美容院へ行ける、独りで作業所へ行く用意が出来る、言うことを聞くようになった等、随分成長しているんだなと嬉しくもあります。自立させよう等と考えなくても障害者なりに自立に向かって進歩していたのです。今までの心配が、嘘のように消えました。

寧子は夜中にトイレに起きると必ず私のベッドへ声をかけにきてくれます（有り難迷惑なのですが）。電気もつけずに足音もたてず「ママ、ママ」と小さな声で返事するまで呼んでます。返事を聞くと物音一

つたてずに暗闇の中、上手に戻っていきませんが、寧子の顔が見えないので心配になることもあります。

小学校の頃から大好きな先生を一人つくり転動すると又つくりまします。言葉が出ないので好きな人が側にいると安心していられるのでしよう。寧子の生活の知恵なのかもしれないかもしれません。その大好きな現在の先生は、山室さんなのです。お世話になりありがとうございます。こぶし作業所は大好きで大切な仕事場です。休みの日でも行きたいぐらいです。楽しいお泊まりも大好きです。

（こぶし 福田京子）



## こよみ

3月

- 3月 3日（土）職員会議（こぶし）
- 5日（月）デイケース会議（けやき）
- 6日（火）けやきケース会議（けやき）
- 17日（土）デイ職員会議（けやき）
- 19日（月）指導会議（こぶし）
- 20日（火）授産職員会議（けやき）
- 21日～23日 総括・方針会議（こぶし）
- 24日（土）理事会・生活施設建設委員会
- 25日（日）日曜作業所（こぶし）
- 31日（土）法人理事会

## セルプ・みらいの今

平成14年4月開所を目指して取り組みを進めているところですが、先月末に国との協議が無事終わり、内示を待つばかりとなりました。一方、建物についても、より具体的な打ち合わせに入り、屋根、外壁、内装と少しずつ形と色が目に見えてきました。

資金づくりもこれからが本番です。皆様のご協力をお願いいたします。

（こぶし 鈴木）

# 画伯の人柄にふれる

現代国際巨匠絵画展開催

さる2月3・4・5日の3日間にわたり、護国会館において、チャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」が開催されました。今回の企画は、こぶし作業所後援会、けやき作業所後援会、栃木県視覚障害者更生援護施設後援会の三団体が主催となり、「住まいづくり」の資金づくりが目的でした。



前日の日中は、今回の絵画展のため来日された「ギー・ロカジェル画伯」がこぶし作業所を見学され、前夜祭では、仲間の写真撮影など、直接ふれあう機会もありました。

ギー画伯は朝から絵を描くそうで、「好きなことをしているので苦にはならない」「絵を描いているときが一番幸せであり、それが仕事なのがとても幸せだ」と話をされました。その話を聞き、改めて「仲間の仕事」と向き合う良い機会となりました。少ない準備期間の中、沢山の方々の協力も得て、絵画展が無事終了し成功したことを心より感謝申し上げます。今回の収益金は1,100万円になりました。

(こぶし 山室)

## いつまでも幸せに

東岡さん・切無沢さん結婚

去る2月10日(土)にアプローズ益子にて東岡さんと切無沢裕紀さんの結婚を祝う会が開催されました。「私たちの結婚を仲間から祝って欲しい」という二人の気

持ちを大切にして、職員と仲間とで有志を募り実行委員会を1月の中旬につくり、祝う会当日まで3週間あまりという短い期間で準備を進めました。仲間から祝う会の企画の意見が出され、歌の練習も始まり徐々に祝う会のムードが高まってきました。当日は良い天気で参加者は110名を越し2人の門出を祝しました。まず、教会で人前式の結婚式が執り行われ参加者の前で婚姻届に署名しました。みんなからライスシャワーを受け2人で鐘を鳴らしました。祝う会は仲間が企画した内容で進行し、特にインタビュでは盛り上がりました。祝う会が終わっても2人の幸せを願い会場で写真を撮ったり話し合ったりと余韻を楽しんでいました。お幸せに.....

(けやき 田島)



# 掲 示 板

## ボランティア 募集中!

こぶし・けやきと一緒に  
楽しく仕事をしませんか?

## キッチン セルフ ボランティア 募集!!

厨房, フロント係  
をやってみませんか?

## ときわ荘 ボランティア募集!

- 1・夕方ボラ  
夕食作りをお願いします。  
(材料費は当方負担です)
- 2・日中ボラ  
植木の手入れ、掃除等  
\*いずれも月~金。  
できる曜日、時間帯で  
結構です。

共同作業所  
全国連絡会賛助  
会員募集!

<連絡先>  
栃木支部事務局  
けやき作業所

お問い合わせは  
\*こぶし  
作業所へ

## にこにこパンやさん

注文票をFAXにてお送りいたし  
ますので、お気軽にご連絡下さい。

## こぶし・けやき後援会 会員拡大に御協力下さい!

ご連絡はこぶし・けやきどちらでも  
けっこうです。宜しくお願いいたします。

粉石けん

1.2kg箱入

¥270

1.2kg袋入

¥240

固形石けん

2個入

¥100

ご注文いつ

でもo.k!

好評発売中!  
ふふふ石けん